

## 「長崎平和学習」

佐渡山 遥

私は、今回の「長崎平和学習の旅」で被爆地長崎を訪れ、平和について学ぶ、とてもきちょうな体験をさせていただきました。その中でも、1番印象に残ったのが、2日目の原爆遺構巡りでの原爆落下中心地公園へ行った事です。そして、この日の案内役をしてくれた森口さんが見せてくれたのは、原爆が投下されたあとの写真です。とても同じ場所とは思えない程の悲惨なこうけいにびっくりしました。また、最初に見た母子像では、亡くなったのが母親や子どもが多いという事もあり、こういう戦争跡にたっている像に母子をモデルした像が多いのは、そういう意味があったということを知りました。次に被爆当時の地層を見せてもらいました。ここでは、レンガや、熱でとけたガラス、茶碗などがそのまま地層にあり、当時ここに住んでいた人の生活や様子をうかがうことができました。そして次に見たのが浦上天主堂で焼け残った壁です。原爆のしょうげきにより、少しズレていて原爆のすごさを物語っていました。最後は長崎原爆落下中心地標柱でした。この黒御影石の石柱が、原爆落下中心地を示し、周囲は石柱の上空が約 500m で炸裂したことを表す同心円の広場となっています。そして、この公園の1m ほど下にいまでも原爆で亡くなられた方々の遺骨がうまっています。その上に今自分達が立っていると思うと、とてもこわくなりました。この長崎で起こった事は、戦争とは関係のない人達がぎせいになり、また、今でも被爆者達をくるしめているということです。このような事を二度とくり返してはいけません。私は、これらの平和学習を通して学んだ事をしっかりと学校のみんなにも伝えなければならないと改めて自覚しました。そして、平和についてしっかりとみんな考え、世の中が核兵器なき世界の実現へと近づく第一歩になるようがんばりたいです。

## 平和学習を通して

米須 友香

私は、八月七日から十日にかけて長崎平和学習へ行きました。

私は平和学習で学んだことがたくさんありました。その中で一番心に残っていることが森口さんという方からのお話と実際に被爆した場所へ行ったことです。私は被爆中心地や城山小学校の当時のことについてお話を聞きました。爆弾が投下されて多くの人々がなくなり、建物なども爆弾のい力で壊れてしまったと話してくれました。当時の写真を見て私はとても驚きました。たった一つの爆弾によって多くの人々が亡くなり大切な家族を失ってしまったことを知って戦争は一瞬にして全てを奪ってしまう恐ろしいものだと思えました。そして、永野さんという被爆者の方から当時のことについてもお話を聞きました。永野さんは原爆投下によって家族を目の前で失ってしまったと話してくれました。兄弟を鹿児島から無理矢理に連れてきてしまったことに後悔しているとおっしゃっていました。このお話を聞いて、原爆のこわさを知りました。このような貴重なお話を聞いてとても勉強になりました。

私は、今回の長崎平和学習を通して、今が平和で家族と暮らしてご飯が食べられていることがどれだけ幸せということかを改めて感じることができました。七十一年前に起きた、沖縄戦や長崎原爆はつみのない多くの住人が亡くなってしまいました。このような争いを二度と起こしてはいけないと心に強く感じました。私は、二度と起こさないために、いじめをなくすといった自分ができることも小さなことでも積極的にやっっていこうと思いました。そして、平和学習で学んだことをこれから色々な場で活かしたいです。そして、友達や色々な人に話してみんなで平和について考え、これからの世代の人達へ語り継いでいけるように、これからも勉強などを頑張っていきたいです。

## 「長崎平和学習を通して」

小林 魁

僕は、八月七日から八月十日まで、長崎へ行って平和学習をしてきました。長崎では、平和についてたくさんの事を学んできました。二日目の原爆資料館見学、原爆遺構巡りでは、北谷中学校の生徒と講師の森口さんと一緒に原爆落下中心地公園、城山小学校へ行きました。原爆落下中心地公園では、公園内にあるモニュメントの話や、被爆の時に一部がずれた建物の話を聞き実際にさわりました。モニュメントは、女の人が小さな子供を抱いている像でしたが、講師の森口さんは、像を建てたりしてお金を使うのではなく、ちゃんとした復興のために使ってほしいと言っていました。城山小学校では、被爆した建物の一部が残っていて、その建物を資料館として利用していました。校門の前には、裸足の少年の像があって、城山小学校の生徒達は毎日の登下校の時におじぎをしているそうです。校舎の裏には、被爆しても生き残った大きな一本の木があって、他の木に支えられるようにして今も伸びていました。午後からの、被爆者体験講話では、講師の永野さんの子供の頃の被爆体験の話について聞きました。当時永野さんは、爆心地から 2.8km の長崎大学経済学部で学徒報国隊員として作業をしている時に被爆して、原爆の影響で9才の弟と13才の妹を亡くしたそうです。被爆直後は火葬を自分でする事しかできなかったため、目の前で家族を焼かれたそうです。また、僕達と同じ中学生も、武器を造ったりする仕事をやらされていたそうです。三日目は、平和公園で行われた平和祈念式典に参列しました。唯一の被爆国として、原子爆弾の恐ろしさを全世界に理解してもらうように努力する事を他の参列者と共に誓いました。

今回の平和学習を通して、改めて原爆の恐ろしさについて学びました。当時は、被爆者に水を飲ませたら死ぬという噂が広まっていて水を飲みたいという家族に水を飲ませられなかったと言っていました。現在は、水もたくさん飲めるし、食べ物も充分にあって、何事も無く毎日すごせる事がとても幸せだなと感じました。唯一の被爆国として、原爆の恐ろしさを同級生、後輩達に伝えていき、もう二度と、被爆者がでない、戦争が起こらない世界をつかっていきたいです。

## 平和学習を通して

仲村渠 和哉

今から七一年前の一九四五年、八月九日、11時2分、アメリカ軍の戦闘機B-29が、長崎に原子爆弾通称（ファットマン）を投下しました。このファットマンの直径は1m52cm、長さ3m25cm、重さ4.5tにもなり、死者は七三八八四人、負傷者七四九〇九人にもなったそうです。原子爆弾は、放射線、熱線、熱風という3つの力で、一瞬にして、長崎の町を跡形もなく、焼け野原にしてしまったそうです。この出来事は、第二次世界大戦の終わり頃の日本とアメリカの大戦です。この戦争の始まりは、日本がアメリカ軍基地である、ハワイの真珠湾を攻撃した事から始まりました。これが、太平洋戦争です。原子爆弾が落とされたのは、長崎だけでなく、3日前の8月6日には、広島にも原爆が落とされています。原子爆弾が投下された後、人々は、「水をくれ。」「だれか水をくれ。」と言いながら亡くなっていったと聞きました。原爆を体験した方々は、未だに原爆症に悩み苦しんでいるそうです。僕達の住む沖縄も、かつて、地上戦があり、戦争の事について色々と勉強はしてきたつもりです。今回の長崎平和学習という機会を通して、同じ戦争を体験した地域だからこそできる事、沖縄・長崎・広島の若い世代の僕達が戦争の残虐さや、悲惨さを深く心に刻み、平和な世の中を創る為次の世代へ、受け継いでいかなければいけないと改めて痛感しました。その為には一人一人が相手の気持ちになって考え行動する力が必要であると思います。自分さえよければ良いとか、人を差別したりするのではなく、思いやりを持つという事から小さな平和への一歩が築かれていくのではないのでしょうか。今回こういう機会を与えて下さった皆様に感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。これからも、僕達がしっかり平和へのバトンを受け継いでいけるよう頑張ります。